

2023年3月卒生

企業の採用動向と就職活動について

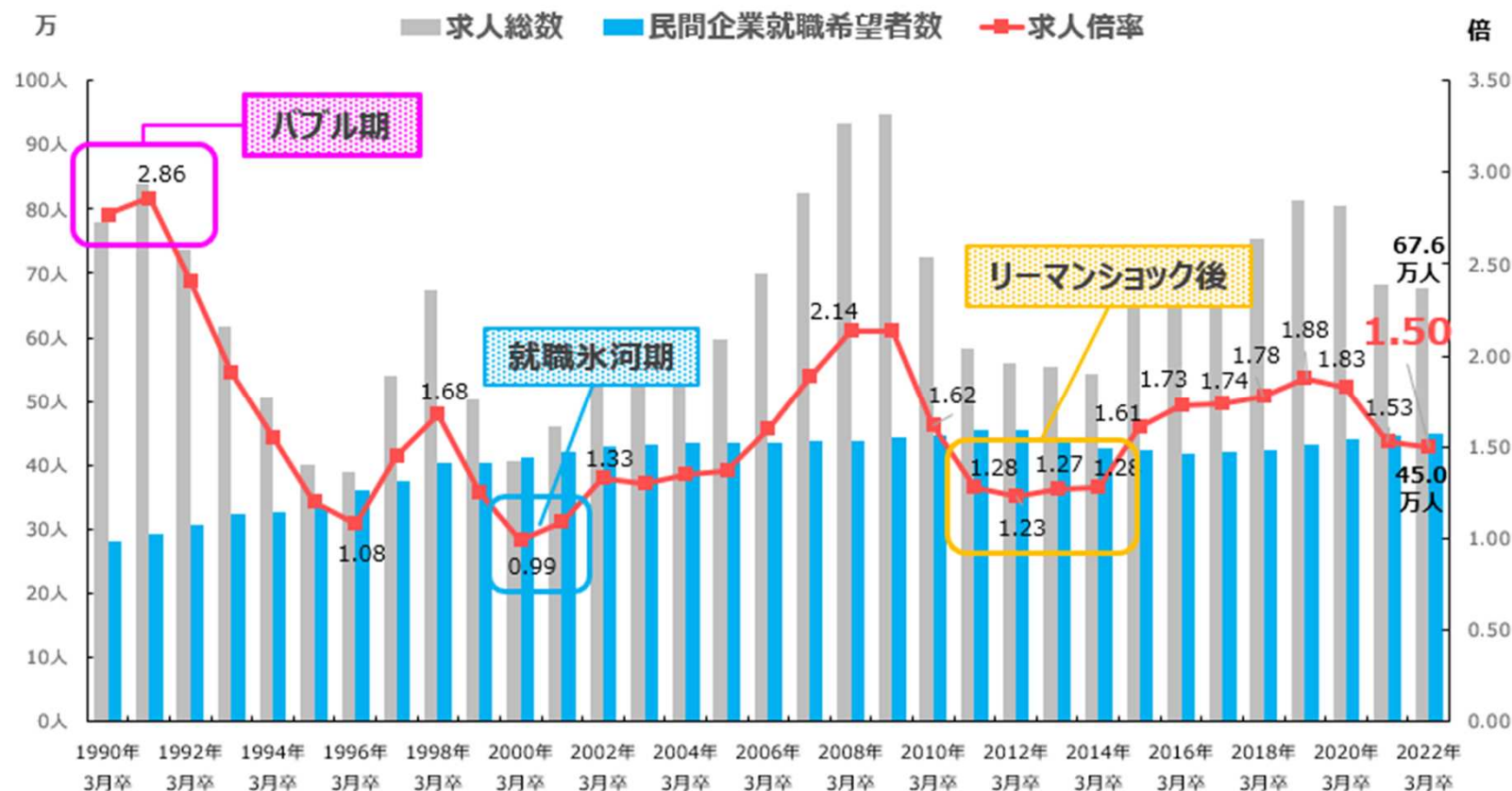
2021年11月

就職支援センター

# 【22年卒】大卒求人倍率

昨年と比較すると微減しているが求人倍率1.5倍台を維持し底堅い結果となった

昨年はコロナウイルスによる経済停滞のため10年ぶりに0.3ポイント下落したが、従業員1000人以上の大企業を中心に採用意欲が徐々に回復した結果このような結果となった。しかし、一昨年水準(1.83倍)までは戻っていない。景気不透明の中で従業員999人以下の企業が採用数が減少している。



出所：「第38回ワークス大卒求人倍率調査（2022年卒）」（2021年4月27日更新）

※2021年3月卒の値は2020年6月調査。

株式会社リクルート リクルートワークス研究所 <https://www.works-i.com/surveys/adoption/graduate.html>

## 【22年卒】大卒求人倍率(従業員規模別、業種別)

全体は1.5倍台ではあるが、従業員規模、業種によって倍率にばらつきがある

従業員規模別でみると、5000人以上の大企業は0.41倍と狭き門となっている。

業種別は金融業0.31倍、サービス・情報業が0.21倍と狭き門となる。コロナウイルスにより、る金融業を希望学生の増加や、サービス業に分類される飲食、宿泊業の採用数減少により昨年から更に求人倍率が下がっている。(金融業は昨年-0.07ポイント、サービス・情報業は昨年-0.03ポイント)

従業員数	求人倍率
300人未満	5.28倍
300~999人	0.89倍
1,000~4,999人	0.98倍
5,000人以上	0.41倍

業種	求人倍率
建設業	6.40倍
製造業	1.71倍
流通業	8.12倍
金融業	0.21倍
サービス・情報業	0.31倍

出所：「第38回ワークス大卒求人倍率調査（2022年卒）」（2021年4月27日更新）

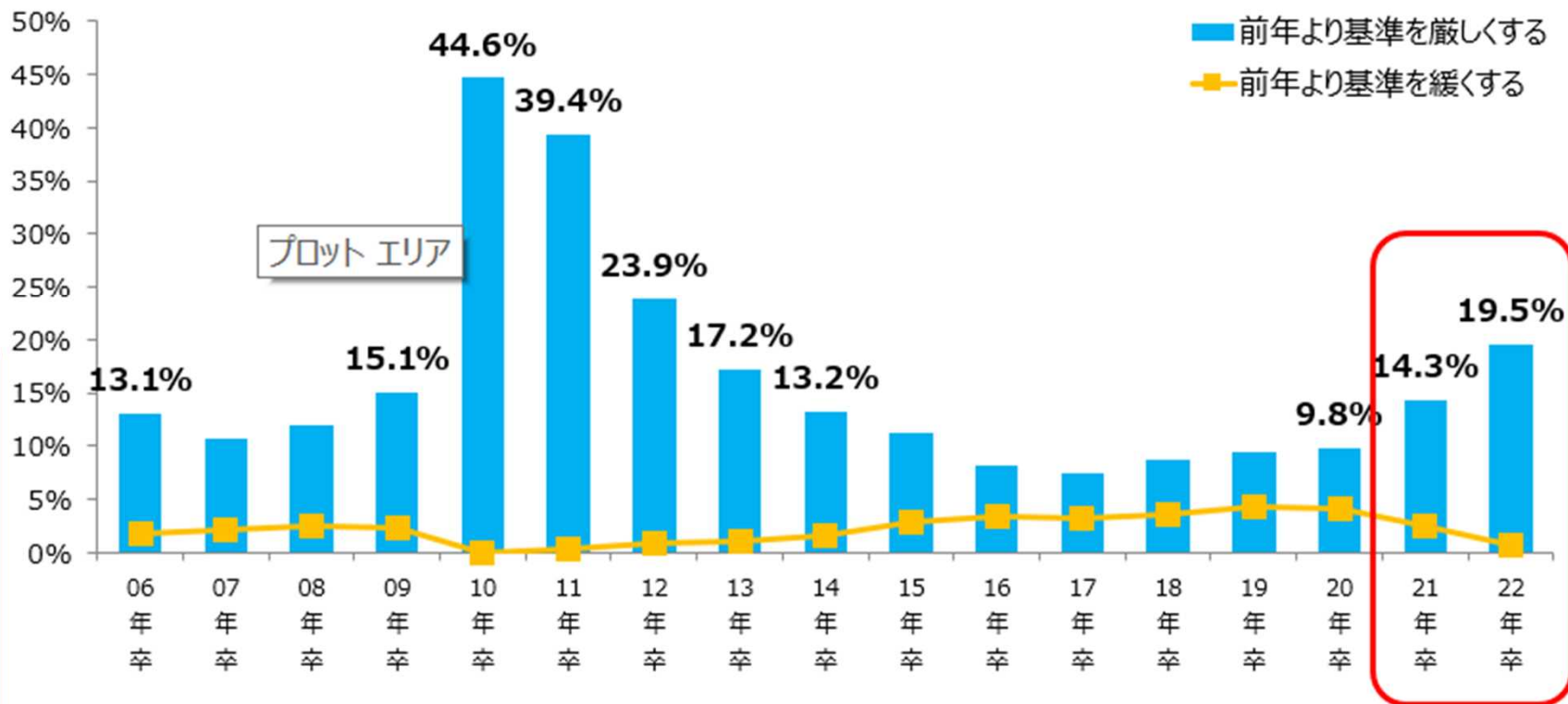
株式会社リクルート リクルートワークス研究所 <https://www.works-i.com/surveys/adoption/graduate.html>

## 【企業】採用基準

全体的な採用予定数の減少により、採用基準を厳しくする企業が増加している

採用予定数の減少により、選考時の基準を厳しくする企業が増加している。2022年卒学生の基準に関しては「前年よりも厳しくする」と回答した企業が全体の19.5%と昨年から5.2ポイント上昇しており、5年連続の増加傾向となった。学生はこれまで以上の準備、対策等が必要となっている。

### 22年卒の採用基準を21年卒（前年）と比較してどうか (n=2,032)





# 就職活動スケジュール

政府主導の就活スケジュールは2023年卒も2022年卒までと同様となる

民間企業は3年次の3月から一斉にエントリーが始まり、その後、説明会、エントリーシート、筆記試験等がスタートする、面接は6月以降が望ましいとの指針ではあるが多くの企業が3月から始めている。

公務員は自治体等により違いがあるが民間よりも約1か月程度遅くスタートする。スケジュールは企業、自治体によって違いがあるため、学生は希望の職場について早いうちから情報収集をしておく必要がある。

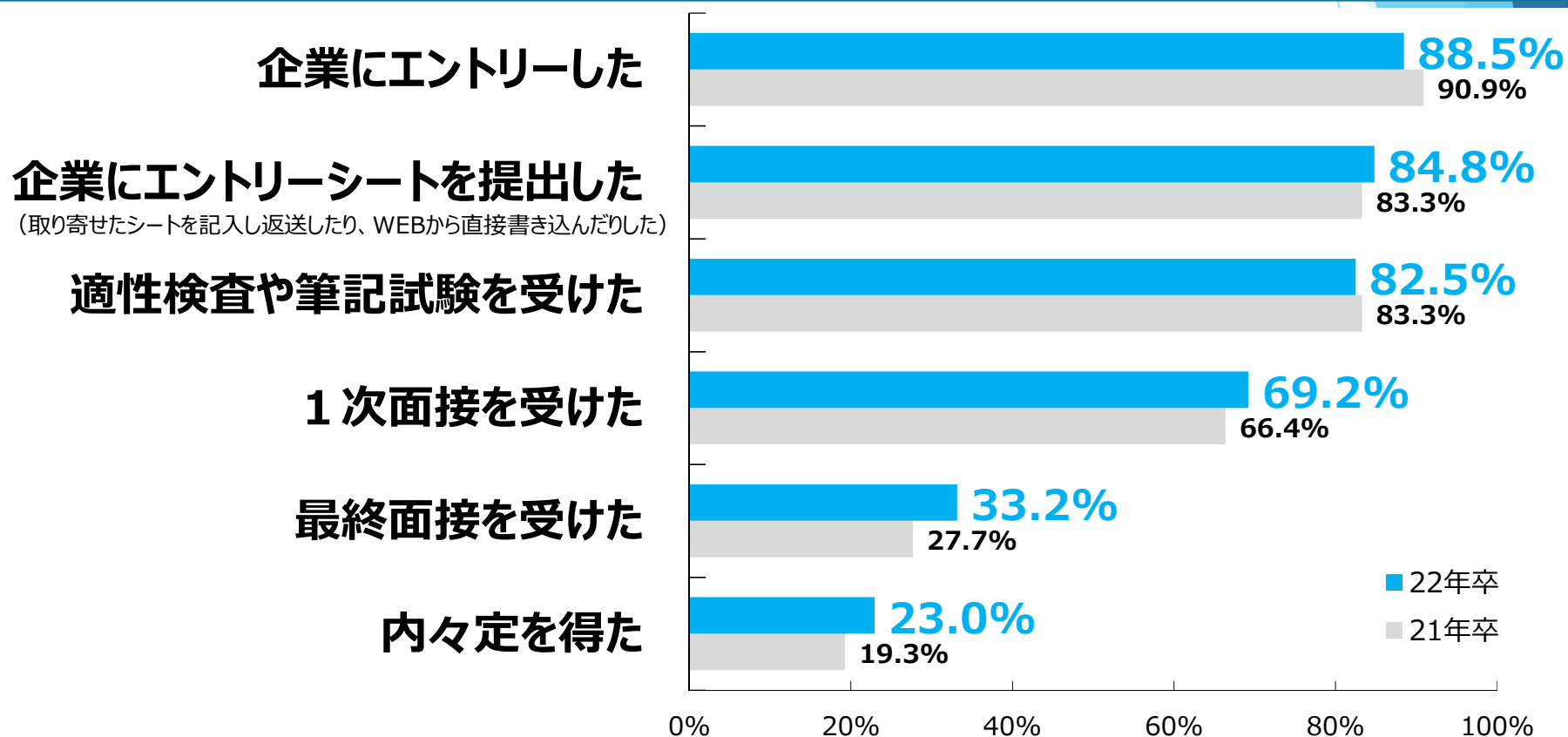


## 【学生】3年次3月の活動状況

3年生の3月までに「どれだけ準備できるか」が鍵となる

下記データは2022年卒の学生が3年次3月の1か月間に何をしたかについて聞いている。

70%近くの学生が1次面接も受けたと回答しており、その前段階となるエントリー、エントリーシート、適性検査、筆記試験は80%を超えている。この結果からも3年次の3月に集中して活動が行われることがわかる。学生は希望企業の選定、情報収集、選考対策まで2月末までに終える意識が重要となっている。



# 【コロナ禍での変化】各フェーズでのWEB活用

企業はWEBと対面を使い分け、学生のWEB活用は一般的になる

企業は21年卒採用の経験から、WEBと対面を使い分けるようになった（情報伝達ではWEB、コミュニケーションが目的の場合は対面等）、学生はインターンシップ期間にWEB活用を多く経験しており、21年卒学生に比べると22年卒学生は、よりWEB利用に対して寛容になっている。

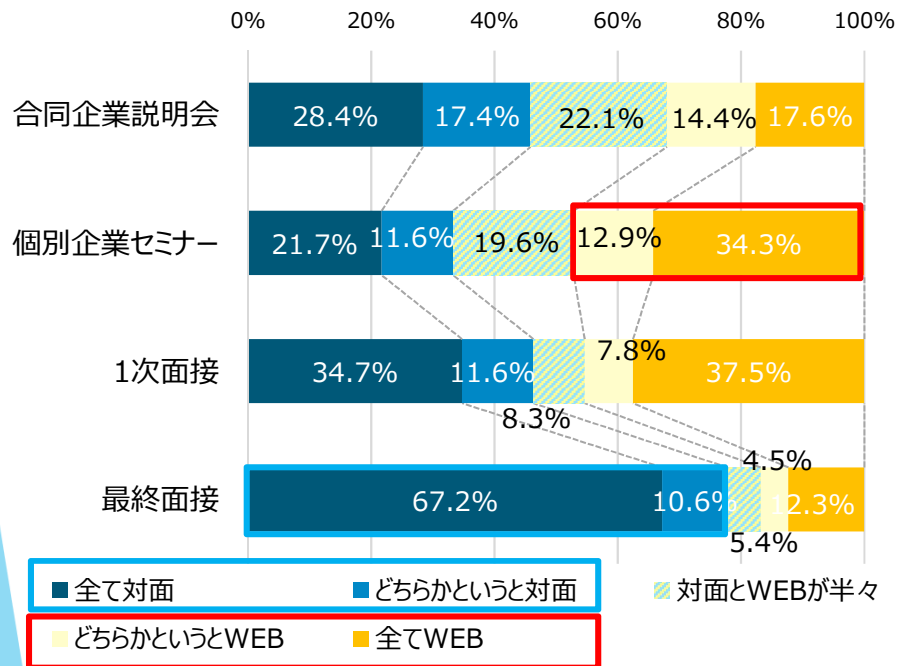
企業

「個別企業セミナー」「1次面接」でWEB活用  
「最終面接」は対面実施と使い分けられた

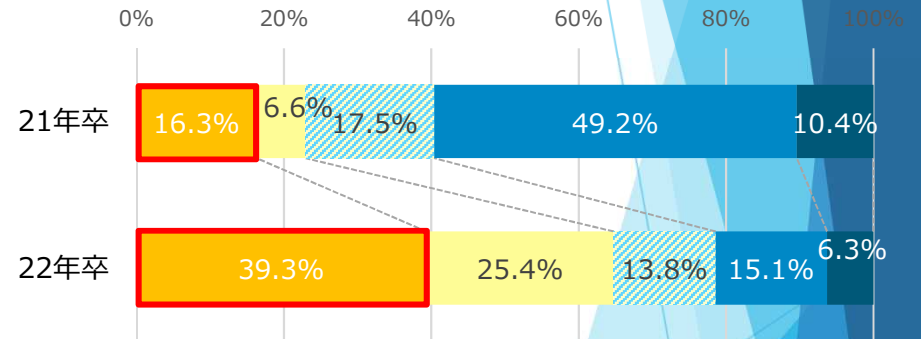
学生

WEB選考が一般的になったものの  
最終面接などは対面を望む声も

フェーズ別WEB活用状況



「対面」または「WEB」での実施について、考えが一番近いもの



■ 全工程（会社説明会～最終面接）WEB化してもかまわない

■ 会社説明会～最終面接前まではWEB化してもいいが、最終面接は対面が望ましい

■ 会社説明会～1次面接まではWEB化してもいいが、2次面接以降は対面が望ましい

■ 会社説明会はWEB化してもいいが、1次面接以降は対面での実施が望ましい



## 学生に求められる意識・行動

数年前と比べると厳しくなった就職活動に向けて学生は下記の対策が必要である

- ① インターンシップ等に参加し、様々な業界を調べ、選択肢を広げる。
- ② 3年次の2月までにエントリーシート対策、筆記試験対策、面接対策等を終える意識を持つ。
- ③ 選考で主に聞かれることは、「学生時代に何をしたか?」。この質問を通し、面接官は学生の特徴や、価値観、可能性を見ていく。自信を持って取り組んだと言える経験を積んでいくことが重要。

### 1) 志望の視野を広げておく

- 一つの企業、一つの業界に絞りすぎるのは危険
- 各業界・企業を志す理由が準備できるとgood!
- 視野を広げる+深める手段としてインターンシップ<sup>o</sup>を活用

### 2) 早めの準備開始

- 自分の選択肢を広げる+選考対策
- これまでの経験を自己PRとして伝える準備も必要

### 3) 主体的な学生生活を

- 主体的になることで学び・成長・気づきが得られる
- 進路選択、選考対策につながる



# インターンシップとは

納得のいく就活をするためにはインターンシップの参加は重要である

マイナビの調査では、80%以上の学生がインターンシップに参加している。早い時期から職場を知ることができるインターンシップは、学生にとって非常にメリットがあるため、是非積極的な参加をお勧めください。

## 社会（企業、自治体等）の中で 就業体験ができる制度

### 仕事理解

実際に働いている方々から  
生の情報が得られる

### 自己理解

自分の適性（強み弱み）や  
課題を発見できる

### 必要なスキル

今後の学生生活の目標、  
勉強すべき事が見つかる

### 出会い、人脈

目標となる人や将来目指す姿  
が明確になる

# インターンシップのメリット

インターンシップ参加経験有無は、内々定率にも差が出ている

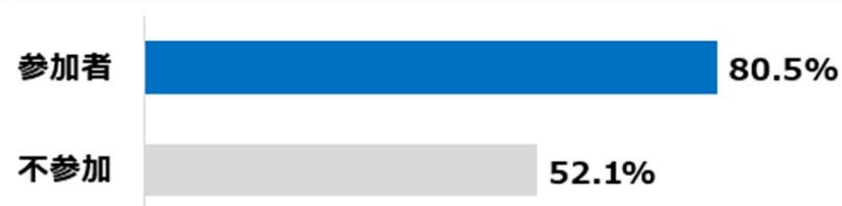
マイナビの調査によると、インターンシップ参加経験のある学生とない学生では、6月末時点で内々定率に28.4ポイント差が出ている。インターンシップを通して仕事理解、職場理解が進むため、選考時にその情報が役に立っているとも言える。

**仕事理解  
自分理解  
がすすむ**

- ・企業に関する知識（業界、職種、ビジネスモデルなど）
- ・仕事を進めるうえで必要な力、考え方
- ・学校での学びが社会や仕事でどう活かせるのか
- ・ビジネス社会に必要な常識やルール（マナー）
- ・イメージと現実のギャップ
- ・いまの自分に足りないもの
- ・社会人のライフスタイル など

**内々定率に  
差が出る**

22年卒インターンシップ参加有無による内々定率の関係（6月末時点）

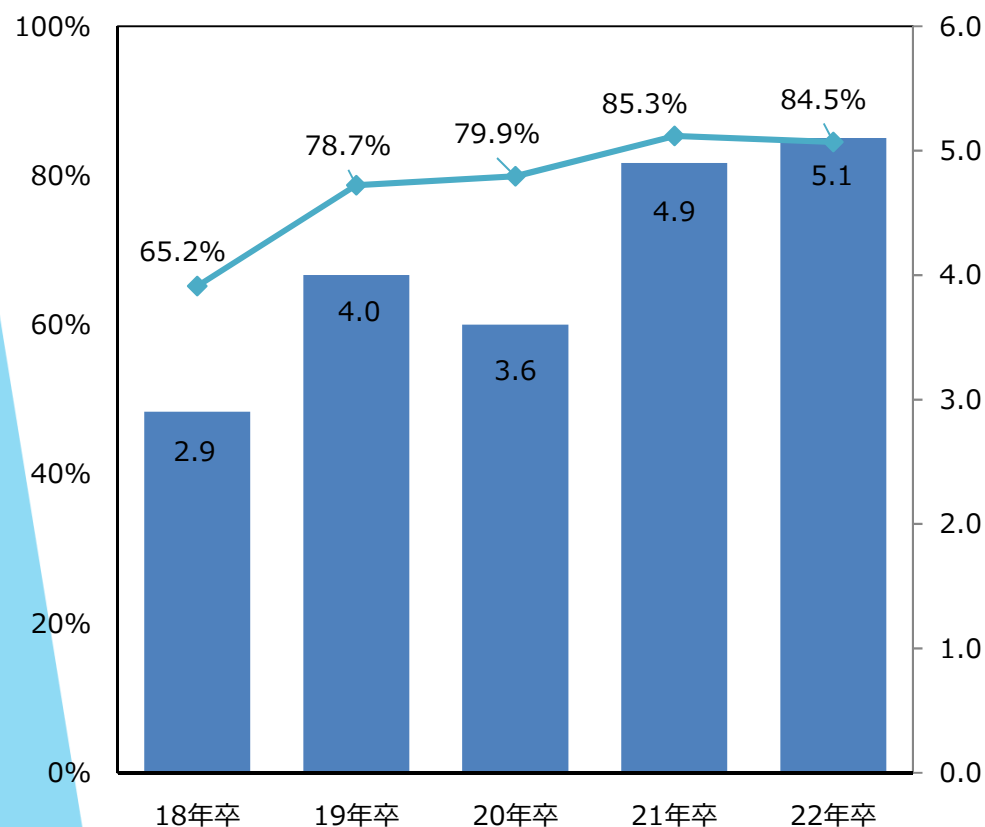


## 【学生】インターンシップ参加率と参加社数

先述した参加のメリットを背景に、多くの学生がインターンシップに複数参加している

2022年卒の調査で、インターンシップに参加経験がある学生は84.5%、更に1人当たりの参加社数は、5.1社と積極的に参加している。コロナ過でオンラインのインターンシップが増加したことも、鳥取の学生は参加しやすくなったと前向きに捉えている方が多い。

インターンシップ参加率と参加社数の推移



<属性別>

インターンシップ参加率

	18年卒	19年卒	20年卒	21年卒	22年卒
文系男子	63.7%	78.6%	75.4%	81.9%	82.8%
文系女子	66.7%	80.5%	81.4%	86.2%	84.2%
理系男子	64.8%	75.6%	81.3%	87.0%	86.5%
理系女子	65.8%	80.9%	84.8%	87.7%	85.3%

インターンシップ平均参加社数

	18年卒	19年卒	20年卒	21年卒	22年卒
文系男子	3.3	4.6	4.0	4.8	5.4
文系女子	3.0	4.0	3.7	5.2	5.4
理系男子	2.6	3.4	3.3	4.6	4.5
理系女子	2.6	3.7	3.5	4.8	4.8

## 就活スタイルの変化

保護者様の就活スタイルと現在の就活スタイルは大きく変化している

情報収集から、各選考の申し込みまで、ほとんどが就職サイトを通して進めていく時代となっている。

選考も多様化し、学生が準備すべき事が増え、本業である学問と就活準備を両立する必要がある。

	過去	現在
主な情報源	就職情報誌	就職情報サイト
応募方法	資料請求／電話	WEBエントリー
選考試験	履歴書／面接	エントリーシート／筆記試験／ 集団面接／WEB面接 など
就活準備	特になし	自己分析／仕事研究／ 全国模試／模擬面接 など



## 就活成功する学生、苦戦する学生

就活がスムーズに進む学生は下記のような共通点あり

就活がスムーズに進む学生は、早い時期から学内の就職イベントに参加し、対策を進めたり、サイトの情報だけでなく、説明会などを積極的に活用し、よりリアルな情報を集めようとする傾向がある。学内の就職ガイダンス等で何をすべきかをお伝えしていますので、積極的に参加するようご案内ください。

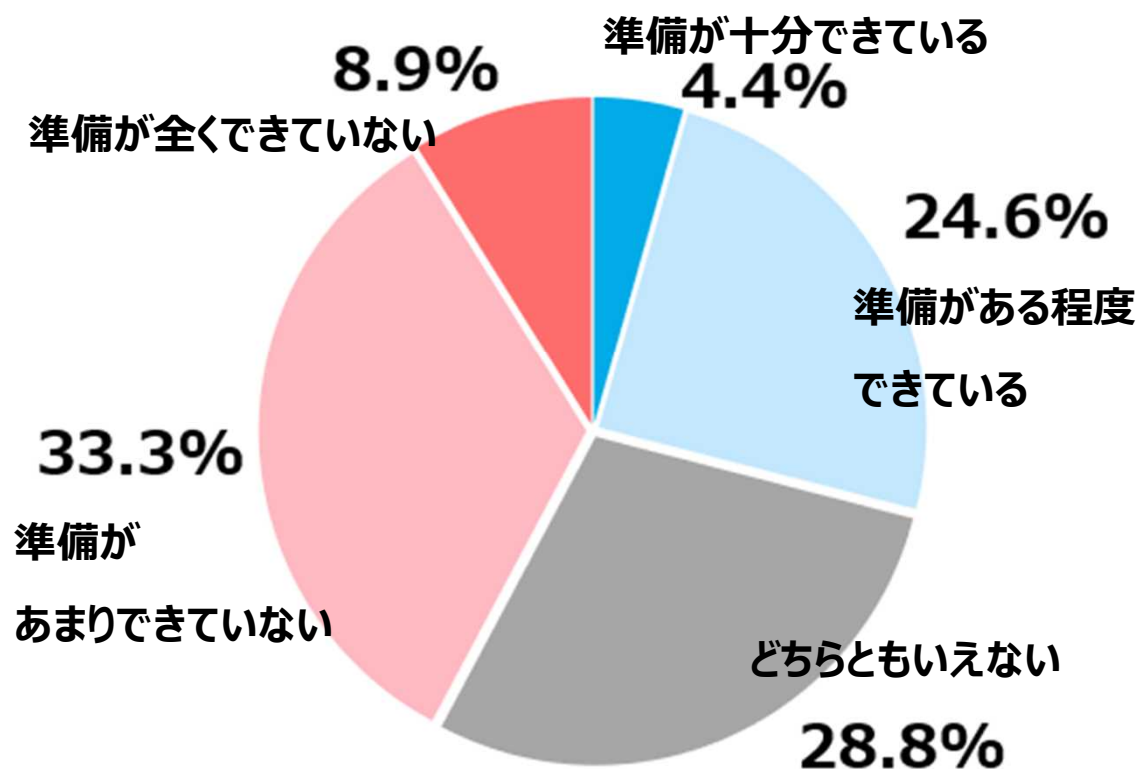
	成功する学生	苦戦する学生
就活準備	自己分析、業界研究、筆記試験対策をコツコツ行う。 インターンシップは複数社参加 就職対策講座も必ず参加	何とかかなと思っている、3月まで何もしない。 インターンシップも行かない。 就職対策講座も参加しない。
情報収集	新聞、TV、ビジネス雑誌、OBOG訪問、会社説明会、キャリア支援室の活用など	インターネット中心、情報源が偏っている、就職対策本、楽をした先輩の話などを鵜呑みにする
企業選び	自分に合った企業、やりたいことができる、自己成長など	人気業界、大手・有名企業、イメージ優先、拘りが強すぎる、親の意見が強い
選考対策	自分の言葉で伝える、「伝わる」を意識する、振り返り（反省）する、添削を何度も受ける・模擬面接を受けるなど	一夜漬け、自分で考える前に正解を探す、面接の回答が丸暗記など準備不足。

## 学生が抱える不安

### 現実には就活準備が出来ていない学生が4割近く

3年次3月の本番を目前に控えた時期でも、4割の学生が就活準備が「あまりできていない」、「全くできていない」と回答しています。就活を自分事と捉えることが準備の第1歩に繋がるため、保護者の皆様からも就活に対するお話をお子様と定期的にして頂くようお願いいたします。

### 2月時点で就活準備をどの程度できていると思うか



# 就職活動期のご家族による支援

## 1. 一番身近な者としての目線で長所や強みを伝える

就職活動のスタートは、自分の方向性を定めるべく「自己分析」から取り組みます。「自分はどのような人間なのか」「どのようなことをしたいのか」などになります。書類選考や面接でも問われることにもなります。学生も悩み、なかなか答えを出せないことも多いと思われます。そんな時こそ、一番身近な者として、「長所・強み・良さ」を是非伝えてあげて、今後の方向性を見出してあげて欲しいと思います。

## 2. 経済的なサポートを

交通費や証明写真撮影・スーツ・靴代・ネット代など出費がかさみます。就職活動のやる気にもつながるので、与えるのではなく、貸与するというスタンスでの援助も検討を。

## 3. 本人の意思を理解し尊重してあげる

20年前から産業構造も社会の価値基準もずいぶん変化しています。先入観に囚われず、適切なアドバイスを行ってください。また、「自分のやりたい仕事ができそう」「理念に共感できる」など本人なりの選択基準を持ち始めます。本人の意思を尊重してあげてください。

## 4. 安心して帰ってこられる場所をつくってあげる

学生によっては、何度も選考で不合格になるというつらい経験をすることもあります。就職活動を経験した学生に聞くと「自分を否定された気がして落ち込んだ」と話す人がすくなくありません。時にはねぎらいの言葉をかけ、本人がリラックスできる環境を作ってあげてください。

引き続き本学の就職支援活動に  
ご理解とご協力をお願い申し上げます。

就職支援センター